

「極端気象下での気象情報活用」に関する取り組み

【浪江町】×【(株)ウェザーニューズ】

1 解決したい地域課題

- ・昨今の極端気象により、市町の職員業務では、従来の防災対応部門以外の**多様な部門で気象情報の活用必要性が高まっている**
- ・従来、気象情報とあまり向き合ってこられなかった部門の方々に気象情報を活用頂き、各部門の業務にどのように貢献できるかを検証する

2 実証事業の到達目標

- ・自治体：住民課、農林水産課の各業務において気象情報コンテンツを試用し、どのように業務に役に立つかを検証する
- ・企業：コンテンツのどの部分が該当業務にどのように貢献する可能性があるかを確認し、更なる改良点などを抽出した上で自治体への横展開計画を策定する

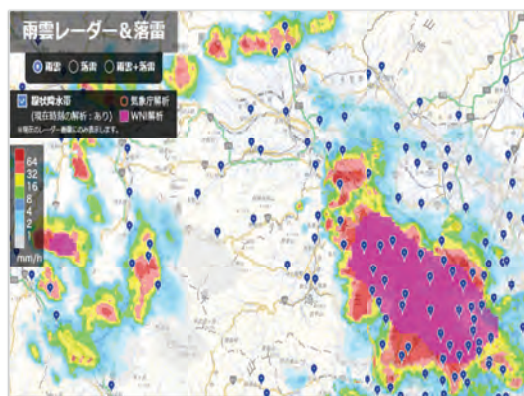
3 実施内容

【 取組①：住民課での活用 】

- ・災害発生後にいち早く「災害ごみの仮置き場」を設営する必要があることから、災害発生の予見、災害発生場所の予測等に活用する
- ・その他 現場確認等屋外業務の実施可否判断に活用する



大雨リスク情報



線状降水帯発生状況, 予測情報

【 取組②：農林水産課での活用 】

- ・農業施設(貯水ダム等)の管理にあたり、水害等の危険性を事前に把握するために活用する
- ・海岸域での漁業関係者向けに海岸域でのゲリラ雷雨等の異常気象発生リスク情報発信に活用する

河川水位情報



雨雲レーダー / ゲリラ雷雨予測



4 まとめ（今後の展望）

＜自治体＞

- ・実施期間が3か月(出水期を外した期間)であり、具体的な対処事象にあまり出会わなかった事、期間が短かったため操作に慣れる前に終了してしまったことは残念。今後、機会があれば庁内での活用を促していきたい。

＜企業＞

- ・住民課における「災害ゴミ仮置き場」設営判断や農林水産課での農業施設での水害危険性把握等の各業務の視点で活用の可能性があることがアンケート結果によって確認できた。アンケートにおける不足点などを検証しつつ、今後の他の自治体での横展開を図っていきたい。